

21

水戸日建工科専門学校 2年

今井 千聖、岩田 陽由莉、根本 歩
町と人の波 ～平磯地区活性化計画～



町と人の波

～平磯地区活性化計画～

水戸日建工科専門学校
2年 建築インテリアデザイン科

今井 千聖
岩田 陽由
根本 莉歩



● コンセプト ●

少子高齢化が進む現在、慣れ親しんだ町の過疎化により、活気がなくなる光景を目にする機会が増えた。私達の地元である茨城県ひたちなか市平磯町も例外ではなく、町の過疎化や、地形による暮らしにくさ、建物の老朽化などの問題を抱えている。そこで私達は、人の流れや地域のつながりの創出が町おこしの一步であると考えた。複数の施設をつくり、つなげることで人の流れが生まれる。その流れが町と町に来る人々のつながりを生む。複数の施設からはじまり、人を介して次々と伝わっていくつながりを波として表現する計画。

● 提案ダイアグラム ●

現状



提案



未来像



- ・人口減少による町の過疎化
- ・建物の老朽化
- ・太平洋に面しているため浸水予測範囲内だが、避難経路の標高差が大きく急勾配。

- 複数の施設をつくり、つなげる
- ・1つの大型建築物をつくるのではなく、複数つくることで地域を巻き込む。
- ・町を巡る形にすることで、人の流れが生まれる。
- ・施設間をつなぐだけでなく、避難経路として利用できるようにする。

計画物をきっかけに人を介して次々と伝わっていくつながりが、将来にわたり継続し、町の活性化へ導く。

- 空き資源の改修と活用
- ・今ある建物、地域に根付いた建物を利用することで、地域の人にも愛される施設をつくる。
- ・地域のコミュニティに地域外の人が触れる機会をつくる。



● 計画地 ●



茨城県ひたちなか市平磯地区
太平洋に面したのどかな町。「くじらの大ちゃん」という浮島が名物の平磯海水浴場がある。夏季には海水浴を目的とした観光客が訪れる。人口は3738人（2015年時点）



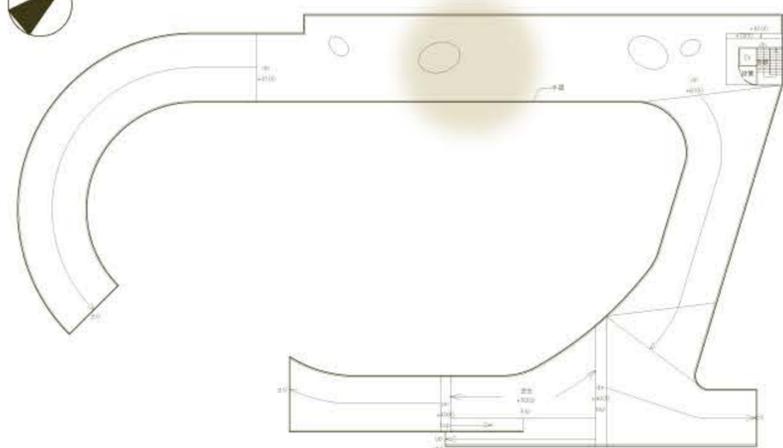
● 計画地案内図 ●



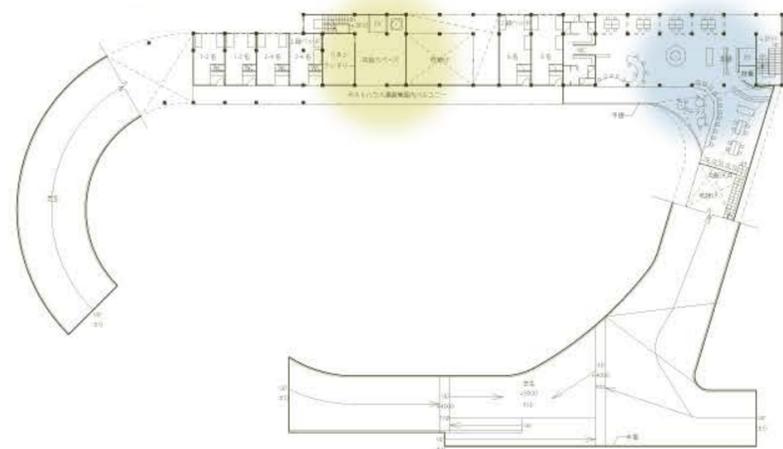
人が訪れ、地域の人とつながり、町がもつ良さを知ってほしい。

廃校を利用し、人々が集う施設へ

廃校となっても広い敷地で遊ぶことの出来る校庭は、子供達が集まる場所として機能している。これを活かし、町の"広場"となり人々が集う施設を目指す。



屋上平面図 S=1/500



2階平面図 S=1/500



配置図兼1階平面図 S=1/500 ※ ()内は開口部をユーリとしたときとする。



南東立面図 S=1/500

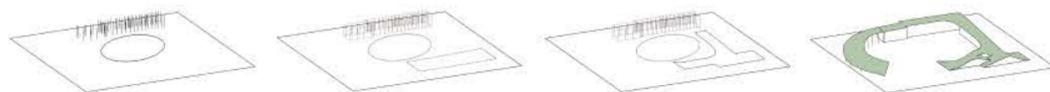


A断面図 S=1/500



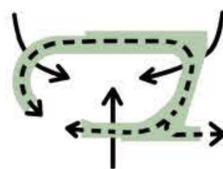
B断面図 S=1/500

造形ダイアグラム



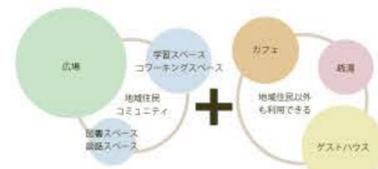
1. 既存の校舎をフレームだけ残し再利用する。校庭としての機能を残すため中央に空間をつくる。
2. 景観の良い海側に集客を望める施設を配置する。
3. 既存の校舎と新設する建物をつなぎ、校庭から校舎の屋上に向かって徐々に高さをつけていく。
4. 校庭から屋上を回遊出来る造形とし、屋上緑化をする事で施設全体が広場として機能するよう計画する。

動線



緩やかに広場へ集まる動線と、地上から建物の屋上まで回遊出来る動線で計画した。回遊動線と高低差による視覚的変化を楽しみながら運動促進へと繋げる。

施設構成図



主に地域住民の利用をターゲットにした構成とする。そこに地域住民以外にも利用出来る施設を複合することで地域のコミュニティを解放し、地域住民と旅行者や滞在者の交流を図る。

広場

広い敷地を生かし、公園や、地域イベントの開催場所、交流の場として利用出来るように計画した。また、既存の建物の一部を外部空間とし、廃校の黒板を残すことで、子供達の遊具や、屋外の講習場所として利用出来る。

カフェ

シェル構造により多曲面にした屋根は、高さが1.5mから4.5mまで変化する。また、ソファは背もたれの取り外しが可能で、様々な席に変化できる。南西側はカーテンウォールで広場から緩やかにつながり、北東側は開口のない壁となっていて落ち着いた空間となっている。使う人の用途によって、自分に合う空間の発見や過ごし方が出来る。

- ・海側のテーブル席から海を眺められる。
- ・親の目が届く範囲にキッズスペースを設けることで、子育て世代に配慮した。

書・談話、学習・コワーキングスペース

既存の建物と増築した建物を繋ぎ施設。1階の図書・談話スペースと2階の学習・コワーキングスペースが吹抜けて繋がる。1階からの階段は壁一面が本棚になっていて、使いやすさと魅せ方を考慮したデザインにした。2階はカウンター席から吹抜けが繋がり、カフェ内を眺めながら作業出来る。また、可動壁のため個室や会議室を作ることが出来る。

ゲストハウス

転入促進を目的とし、商店街でのチャレンジショップ利用者や合宿等の長期滞在を考えゲストハウスを複合した。

- ・片廊下型となっていて広場側にカーテンウォールの通路があるため、地元の住まいを体感できる。
- ・元が学校であるのを利用し、家庭科室を共同調理場としたことで、他の利用者との交流が生まれる。
- ・ゲストハウス利用者は同施設内の銭湯を利用することができ、地域住民との交流が生まれる。

銭湯

地域住民からゲストハウス利用者、観光客まで幅広く利用する事の出来る銭湯を設置し、町の癒し空間、交流場となるようにする。

- ・過去に町に存在していた銭湯を施設内に復活させることで、地域住民の利用を考えた。
- ・海が近いため、夏は海水浴、冬は日の出を眺める観光客の利用も考えた。

屋上

緑化された屋上からは平磯の海と町全体を眺望出来る。足が不自由な方もエレベーターを利用することで屋上まで登れるよう配慮した。乳白色のガラスを埋め込むことで施設内に自然光を取り入れる。



設計概要

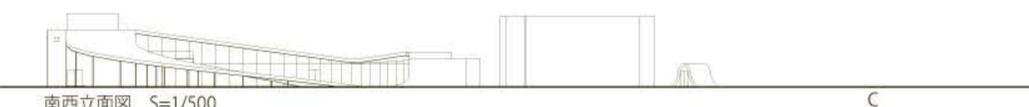
計画地	旧平磯小学校
構造	鉄筋コンクリート造
用途	複合施設(広場、カフェ、図書・談話スペース、学習・コワーキングスペース、銭湯、ゲストハウス)
階数	地下1階(機械室) 地上2階
敷地面積	10,662.17㎡
建築面積	2,454.50㎡
延床面積	2,781.03㎡
1階床面積	1,664.08㎡
2階床面積	1,116.94㎡
地下1階床面積	101.90㎡

外部仕上表

屋根	ウレタン塗膜防水仕上げ(土を載せ緑化)
外壁	ガラスカーテンウォール 窯業系サイディング貼り
床	磁器質タイル貼り

内部仕上表

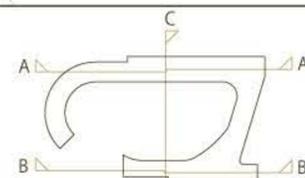
内壁	ビニールクロス貼り
床	磁器質タイル貼り



南西立面図 S=1/500



C断面図 S=1/500



町をつなぎ、人の流れをつくる

高低差のある計画地のため、高台では美しい海とのかな町を眺望することが出来る。
施設ごとをつなぐ“架け橋”になるとともに、高台への避難経路になる。

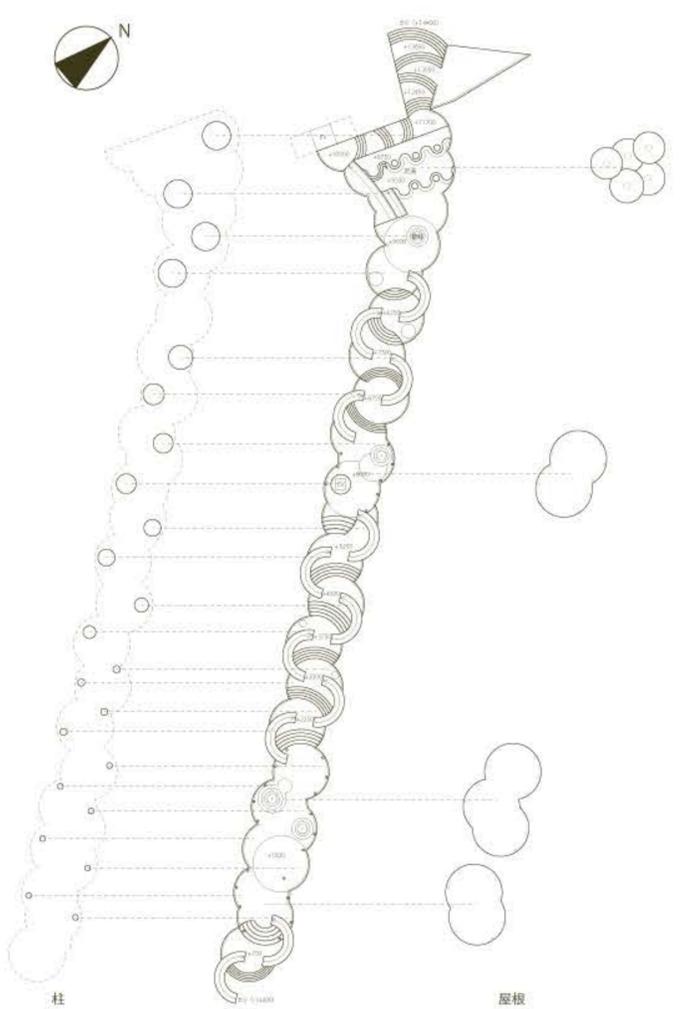
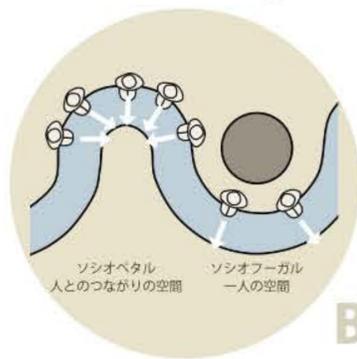


町と人のつながり



災害時の避難経路
・急な坂道がある
・道幅も狭く、見通しが悪い
ため危険な箇所がある

美しい眺め 人の流れが生まれる 観光客が集まりやすい



平面図 S=1/500

A 造形

平磯の海から、水中の泡をモチーフにした造形。商店街から高台まで直線に伸び、緩やかにのぼる。広い踊り場には屋根があり、休憩できるスペースとして植栽やベンチを設けた。

B 足湯

足湯は波打ち際をイメージした形とし、ソシオベタルとソシオファーガルを交互に繰り返す。座る位置により、人とのつながりの空間にも一人の空間にもなる。バリアフリーに配慮し、1段目はスロープでも登れるようになっている。車椅子利用者が車椅子に乗ったまま浸かれるように、手摺とストッパーのあるエリアを設けた。町を眺望しながらゆったりとした時間を過ごしたり、コミュニティを築いたりすることが出来る。

C 屋根

雨水と太陽光を利用し、橋上にエネルギーを持続して供給する。
・屋根に太陽光システムを設置し、照明や、足湯の温度調整に再生可能エネルギーを利用する。
・勾配をつけた足湯の屋根からは雨水を受け、集めた雨水を貯水・浄化し、足湯として利用する。
・足湯の水は定期的に植栽へ散水する。

D 柱

木材を用いた双曲面構造の柱とし、住宅地から見上げた際の圧迫感や光の遮断を緩和する。

E 町への配慮

木材を使用し、町に自然を取り入れる。
橋上の花壇はベンチとしても利用出来る。
住宅への日当たりを考慮し、床の一部に乳白色のガラスを取り入れることで、住宅地に柔らかな光を差す。
住宅地からもエレベーターで登ることが出来るため、地域の人でも利用しやすい。

設計概要	
計画地	平磯地区一部分
構造	鉄骨造
用途	橋、足湯、コミュニティスペース
建築面積	1,005.51㎡
延床面積	1,005.51㎡

外部仕上表	
屋根	ウレタン塗膜防水仕上げ(雨水タンク) ガルバリウム鋼板貼り(太陽光発電機)
床	すりガラス・樺板貼り・磁器質タイル貼り



立面図 S=1/500



地域資源を活用し、集客へ

人通りの減った商店街だが、僅かに聞こえるラジオと地域住民の話し声、抜け道からは海が見え、ゆったりとした時が流れている。地域資源がもつ魅力を最大限活用し、地域住民から観光客まで幅広く"愛される商店街"へ。



町と人のつながり



平磯商店街は地域住民のコミュニティの場として栄えていた。しかし、過疎化や建物の老朽化により、にぎわいがなくなった。



町本来の魅力を損なわず、地域住民から観光客まで幅広く愛される商店街になるためには？

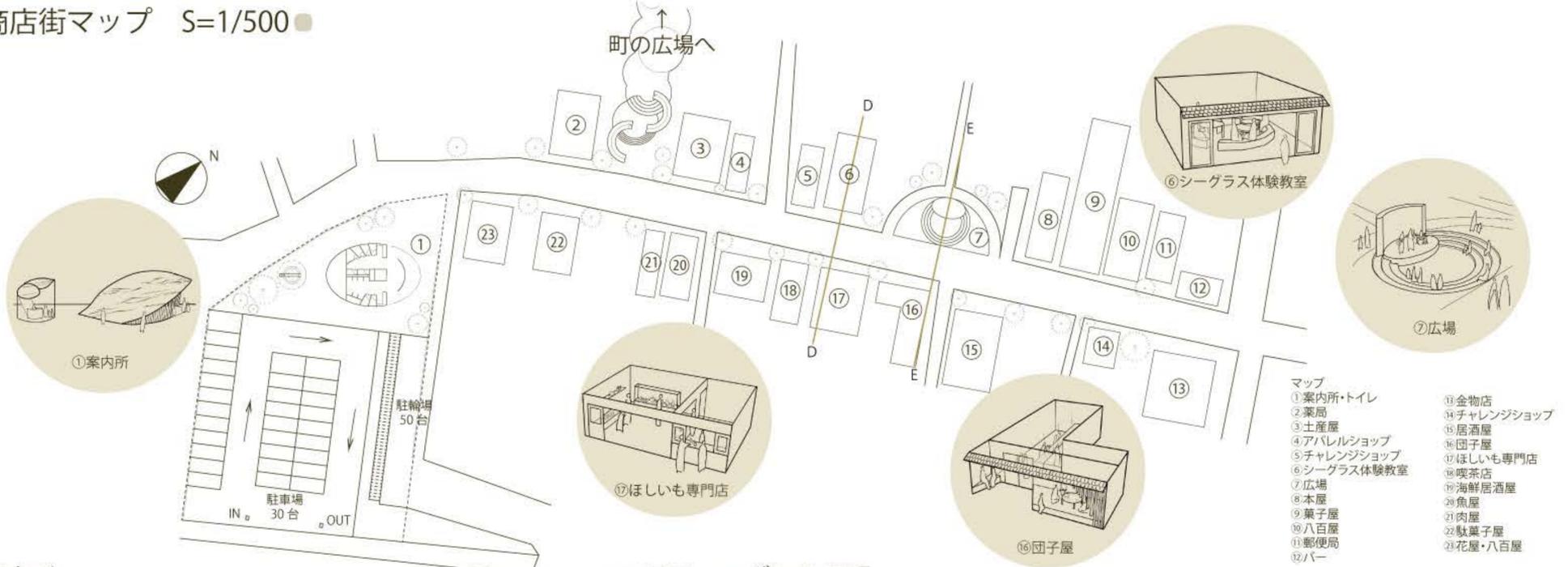


・商店街の空き家を改修し、チャレンジショップや観光向けの店舗を増やす。
・商店街を緑化し、景観を向上させる。



地域だけのコミュニティに留めないこと、町の景観を向上させることで、にぎわいのある商店街を目指す。

商店街マップ S=1/500



01 案内所

平磯のシンボルである「くじらの大ちゃん」をモチーフにした造形。尻尾側が案内所で、頭側は商店街の公衆トイレとした。木材を使用することで塩害の影響を受けず、また、商店街の温かみも表現できる。駐車場付近に設置することで商店街のゲートの存在になるよう考えた。

02 町並み

商店街の道幅の狭さを視覚的に広げる。また、商店街に統一感を持たせ、町の魅力を向上させる。
・店舗のファサードは、ガラスファサードの使用や壁面を下げることで奥行きを感じられるデザインとし、道路を広く見せる。
・無電柱化により快適な歩行空間を確保する。
・瓦屋根の建物や、現在も商している店など、町のもつ雰囲気は残しつつ、木材や緑を取り入れる事で、和ナチュラルな町並みに揃える。

03 植栽

アーケードのない解放的な商店街であることを活かし、植栽を植えることで歩いていて気持ちの良い街路景観とした。

04 広場

商店街と高低差をつけ小規模のステージを設けた。食べ歩きの際のベンチや、休憩所、イベント開催など交流の場として活用できる。

05 アフォーダンス照明

町の明かりに動きや変化を加えることで、人の心理・行動に働きかける演出をする。照明演出を行うことで、景観と調和しながら、魅力的な町の体験価値の向上を図る。



商店街や橋へ誘うように働きかける演出

光だまりが歩行スピードより早く流れることで、動線へと誘引する。



人が集まる場所に心地よい滞留を働きかける演出

あたたかい光がゆったりと明滅することで、居心地の良い空間をつくる。

立面図 S=1/500

D断面図 S=1/500

E断面図 S=1/500

設計概要

	平磯商店街	
計画地	商店街(21店舗)	案内所
構造	木造・鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
用途	商業施設、広場	案内所、トイレ
階数	1階(2店舗) 2階(17店舗) 3階(2店舗)	1階
敷地面積	約5,331.77㎡	約2,013.51㎡
建築面積		84.73㎡
延床面積		58.13㎡

外部仕上表 (商店街リノベーション)

屋根	S瓦葺き
外壁	窯業系サイディング張り
床	磁器質タイル貼り

外部仕上表 (案内所)

屋根	檜板貼り
外壁	檜板貼り
床	磁器質タイル貼り

内部仕上表

内壁	檜板貼り
天井	檜板貼り
床	磁器質タイル貼り

0 10 20 30 40 50 m



▲ 架け橋を登ると見える丘のような外観



▲ 地域住民の出入口（西）



▲ 学習・コワーキングスペース



▲ 地域住民の出入口（北）



▲ 図書・談話スペースからの吹抜け



▲ 広場から見たゲストハウス



▲ 広場から見た既存の建物とのつながり



▲ 広場から見たカフェ



▲ カフェ正面



▲ 南東側上空



▲ 北東側上空



▲ 南側上空



▲ 北西側上空



▲ 橋から複合施設へ



▲ 足湯



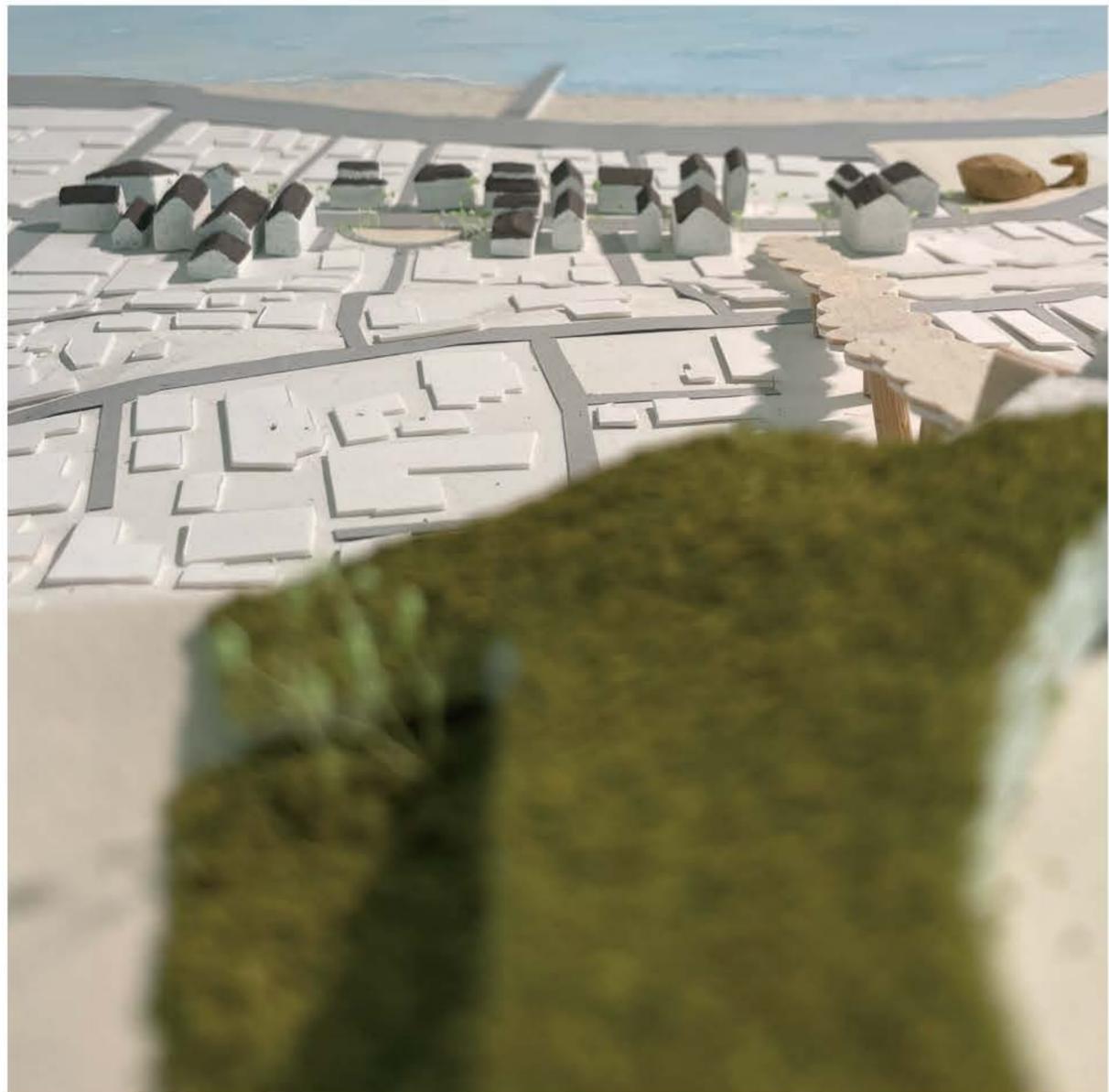
▲ 乳白色のガラスが住宅地に柔らかな光を差す



▲ 駐車場から見た商店街



▲ 全体模型 1/500



▲ 複合施設屋上から見た町